

焼津未来デザイン（案）

令和7年 月

目次

I	はじめに	1
1	策定趣旨や位置付けなど	2
2	焼津未来デザインの概要	3
II	焼津未来デザイン	5
1	焼津未来デザインの構成	6
2	焼津市の未来像	7
3	まちづくりの方向性	10
4	未来デザインイメージ	22

I はじめに



1 策定趣旨や位置付けなど

1) 策定の背景と目的

本市では、2017年（平成29年）に、焼津市の将来ビジョンを示した焼津ダイヤモンド構想を策定するとともに、2018年（平成30年）に、将来都市像を「やさしさ 愛しさ いいもの いっぱい 世界へ広げる水産文化都市 Y A I Z U」として掲げた第6次焼津市総合計画及びその実現に向けた第1期基本計画（焼津 未来共創プラン2018）を策定し、市民と共に様々な施策を総合的に推進してきました。

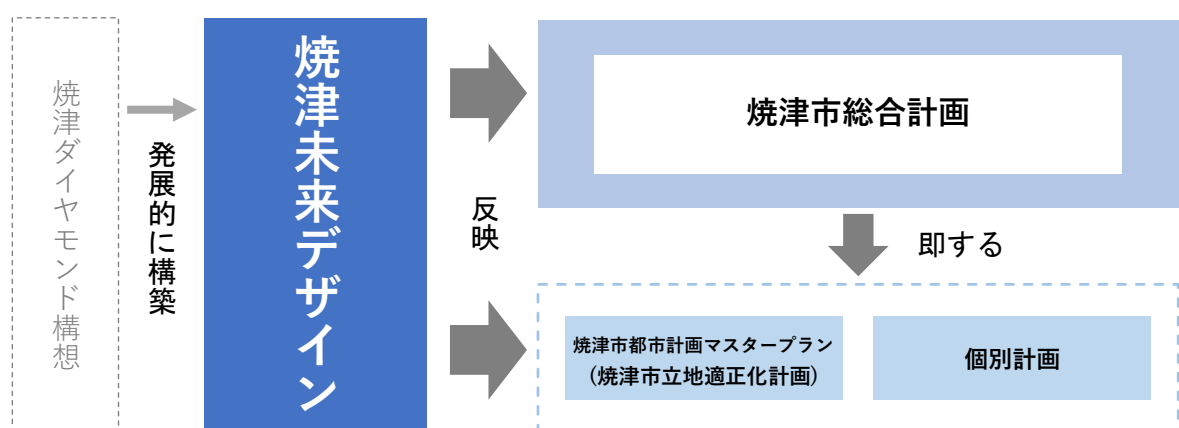
2022年度（令和4年度）には、将来都市像の実現に向け、第2期基本計画（焼津 未来共創プラン2022）を策定し、急速な社会経済情勢の変化に対応した今後のまちづくりにおける基本的な指針とすることとしました。

人口減少・少子高齢化の進行やSociety5.0を見据えたデジタル化の急速な進展などにより社会が大きく変化していることに加え、アフターコロナを見据えつつ、新たな働き方の浸透やビジネスモデルの変容など、今後も社会経済構造や人々の行動、意識・価値観は大きく変化していくことが予測されます。

このような状況を踏まえ、これまでと同様に、市民が住み慣れた地域で生きがいを持ち、安心して生活できるよう、全市的視点から変化に対応した新たな都市づくりが求められており、そのための都市構造やまちづくりのあり方など、未来の焼津市の姿を描くことが必要です。

未来を見据えて、時代の変化に対応した持続可能な都市経営の実現により、まちの活力の維持・向上を図りつつ、市民の暮らしを守り、市民が将来にわたって夢と希望を持って本市で暮らし続けていくために、焼津ダイヤモンド構想を発展的に構築した「焼津未来デザイン」を策定します。

2) 計画の位置付け



3) 目標年度

焼津未来デザインの目標年次は、2044年（令和26年）として設定します。

また、社会情勢の変化への対応、施策の実施状況に適切に対応するために、総合計画の策定・見直しに際して、各事業の進捗状況等を勘案しながら点検することとします。

2 焼津未来デザインの概要

1) 焼津未来デザインとは

焼津未来デザインとは、未来の本市をとりまく社会状況等を予測し、本市が目指すべき「まちの姿や状態」、「人の生活の様子」等を未来像として示し、市民・事業者・行政等、本市に関わる全ての者が、平等に共有するためのものです。

焼津未来デザインは、概ね 20 年後の未来像を示すことを主眼としていることから、総合計画基本計画の策定等、今後の本市のまちづくりに関する施策展開においては、本書で示す未来像を具現化することを目指して、施策や取組を検討・実施することとします。

2) 策定の視点

●分野横断的に検討し、一体的なまちづくりの推進に寄与します

既存の各種計画との整合を図りつつ、現況及び将来予測の的確な把握と、分野横断的な検討を踏まえ、“焼津らしさ”を活かしたまちのあるべき姿と方策を示し、市民・事業者・行政が一体となりまちづくりを推進していける指針とします。

●社会の変化へ対応した指針とします

人口減少・少子高齢化の進行や Society5.0 を見据えたデジタル化の急速な進展、アフターコロナにおける新たな働き方の浸透やビジネスモデルの変容など、急速に変化する社会経済構造や人々の行動、意識・価値観等を把握し、対応します。

●焼津市の未来予測に基づく指針とします

全国的な将来予測及び現在推進している施策等から、焼津市特有の観点による「焼津市の将来予測」を把握し、反映します。

II 焼津未来デザイン



1 焼津未来デザインの構成

焼津未来デザインとは、20年後の市域全体の未来の姿や様子をとりまとめるとともに、その実現のためのまちづくりの方向性と具体的な取組例などを整理し、その総括として未来デザインイメージをまとめています。

本章の構成は、次のとおりです。

< 焼津市の未来像 >

1) 未来像の考え方

2) 未来像

- ①新たな魅力が生み出され、多様な交流が広がり、
笑顔と賑わいがあふれている
- ②コンパクトで安全なまちが形成され、
みんなが安心して快適に暮らしている
- ③誰もが地域の中で活躍し、生きがいや楽しみをもち、
いきいきと暮らしている
- ④魚や温泉、自然などを活かした産業が活性化し、
ずっと働き続け、暮らしていける

< まちづくりの方向性 >

1) まちづくりの方向性の考え方

2) まちづくりの方向性の内容と取組例

- (1) にぎわいと活力ある拠点形成 < 拠点 >
- (2) 持続可能なコミュニティの形成 < 地域 >
- (3) 誰もが住み続けられる生活基盤の形成 < ゾーン >

3) 拠点・地域・ゾーンの関係

< 未来デザインイメージ >

2 焼津市の未来像

1) 市域の未来像の考え方

「Ⅱ まちづくりの課題」を踏まえ、本市が目指すべき 20 年後のあるべき姿を整理すると、本市が重要視すべき未来像は 4 つの姿で整理できます。

< 未来予測を踏まえたまちづくりの課題 >

A 基盤整備による成長実現

B 人口減少に適応した都市構造の構築

C 持続的な成長の実現

D 多様な暮らし方・働き方の実現

E デジタル技術の活用による
地域課題の解決

F 将来を見据えた
公共施設の計画的な管理

G 自然災害への対応

H 持続可能な開発目標(SDGs)の達成
に向けた分野横断的な取組の推進

I 環境保全への取組強化

J 地域コミュニティの維持

K 地域産業の維持・発展

L 地域資源を活かした観光振興

< 未来像 >

① 新たな魅力が生み出され、
多様な交流が広がり、
笑顔と賑わいがあふれている

関連する課題 ▶ A B C D E F G H I J K L

② コンパクトで安全なまちが
形成され、みんなが安心して
快適に暮らしている

関連する課題 ▶ A B C D E F G H I J K L

③ 誰もが地域の中で活躍し、
生きがいや楽しみをもち、
いきいきと暮らしている

関連する課題 ▶ A B C D E F G H I J K L

④ 魚や温泉、自然などを
活かした産業が活性化し、
ずっと働き続け、暮らしていける

関連する課題 ▶ A B C D E F G H I J K L

2) 未来像

「1) 市域の未来像の考え方」で整理された4つの姿を市域の未来像として位置付けます。

未来像の具体的な内容は、次のとおりです。

①新たな魅力が生み出され、多様な交流が広がり、 笑顔と賑わいがあふれている

- ・JR 焼津駅や焼津 IC、大井川焼津藤枝 SIC 等の交通結節点を活かし、市内各所で見られた空き家や低未利用地の官民連携による積極的な活用により、本市の新たな魅力となる拠点が形成され、ヒト・モノ・コトが集まり交流人口が増加しています。
- ・水産業のさらなる発展により、豊富な水産物が本市の知名度をさらに高めています。また、豊かな自然環境と東名高速道路や富士山静岡空港などの優れたアクセス性と相まって、市内に二地域居住等の多様なライフスタイルが浸透したことで、新たな労働市場の開拓や働き方の展開が進み、働き、暮らす場とし移住・定住者が増加しています。
- ・多種多様な業種でDXの取組が進んだことで、スマートシティが実現し、市民サービスの質の高さや利便性が大きく向上するなど、デジタルによる豊かで快適な新しい暮らしが実現しています。

②コンパクトで安全なまちが形成され、 みんなが安心して快適に暮らしている

- ・都市機能や居住機能等の集積と同時に、拠点間を結ぶ公共交通を核とした人の移動において、自動運転等の先進モビリティやMaaS等の技術活用が進み、利便性が高い移動手段が構築されています。その結果、快適で周遊を楽しめるまちが形成され、地域経済の活性化等の地域活力の向上につながっています。
- ・焼津漁港や海岸沿いの防潮堤整備等、地震・津波に関わるハード整備は完了し、デジタル技術やオープンデータを活用した防災・減災まちづくりが新たに進められ、安全で安心して暮らせる基盤が整っています。
- ・地区拠点をベースとして強固で新たな地域コミュニティが形成され、地域主導で地域課題の解決や自主防災力の強化が進められ、市民の安全で快適な暮らしが守られています。

③誰もが地域の中で活躍し、生きがいや楽しみをもち、 いきいきと暮らしている

- ・多様な子育てニーズに対応できる仕組みや地域内で子どもを育てる体制が充実し、子育てがしやすいまちとしての地位が確立され、これらの魅力がもととなり、本市で生まれ育った若者や子育て世代のUターン者、移住者が増加し、活気あるまちになっています。
- ・外国にルーツをもつ市民や障がい者、高齢者等、誰もがいつまでも自分らしく、いきいきと地域社会の一員として活躍できる仕組みや、多世代交流の機会があり、愛着を持ち住み続ける市民が増えています。
- ・新たなコミュニティの形成により地域主導の活動が活発化し、地域内で支え合いと協働の仕組みが構築されるとともに、誰もが地域のなかでつながりをもち安心して快適に過ごすことができます。
- ・スポーツや文化等を活かした新たなコンテンツにより、多様な市民や来訪者等、誰もが楽しめる場が創出され、心身の健康が促進されるとともに、市内外の交流が活発化しています。

④魚や温泉、自然などを活かした産業が活性化し、 ずっと働き続け、暮らしていける

- ・焼津ならではの水産業及び農業におけるDX推進や担い手育成が進み、基幹産業として安定的な経営が行われているとともに、デジタル技術活用による効率的な生産や漁獲、また販路拡大やブランド力の強化等により、国内外で本市の産業の強さが認知され、発展を遂げています。
- ・焼津漁港等で水揚げされる魚や市内で生産される農作物等をはじめとする焼津ブランドの「食」、また、高草山等の「緑」、瀬戸川や栃山川等の数多くの河川をはじめとする「水」、あるいは「焼津温泉」等、本市の強みを活かした観光・商業振興策の積極的展開により、交流人口の増加や地域経済の発展、雇用の創出等の好循環が生まれ、観光業及び商業が本市の基幹産業として成長しています。
- ・交通結節点などから市内全域が5キロ圏内であるという他自治体にはない優位性が積極的に活かされ、職住近接の土地利用が進み、新たな産業が創出されています。

3 まちづくりの方向性

1) まちづくりの方向性の考え方

未来像及び未来像実現のための取組の例を整理すると、次の9つがまちづくりの方向性として整理でき、それをさらに体系区分することにより、3つに分類することができます。グラインドデザインにおいては、ここで整理された3分類9方針をまちづくりの方向性として位置付けます。

< 未来像と実現に向けた取組の例 >

① 新たな魅力が生み出され、多様な交流が広がり、笑顔と賑わいがあふれている

a JR 焼津駅・焼津漁港周辺の一体的なにぎわい創出

b JR 焼津駅、焼津 IC、大井川焼津藤枝 SIC 等の広域交通結節点の活用

c 広域交通ネットワークの活用

② コンパクトで安全なまちが形成され、みんなが安心して快適に暮らしている

d 集積拠点の形成

e 効率的な移動手段の構築

f 市街化調整区域における土地利用の方針設定

③ 誰もが地域の中で活躍し、生きがいや楽しみをもち、いきいきと暮らしている

g 新たな地域コミュニティの構築

h 地域コミュニティにおける地域防災力の向上

i 地域コミュニティでの子育て・教育支援

j 地域包括ケアの推進

④ 魚や温泉、自然などを活かした産業が活性化し、ずっと働き続け、暮らしていける

k 新たな産業の創出

l 水産物や自然資源、農地等の活用

< まちづくりの方向性 >

(1) にぎわいと活力ある拠点形成 < 拠点 >

① 地域の特徴を活かしたにぎわい・交流促進拠点の形成

関連する取組の例 ▶ a b c d e f g h i j k l

② ヒト・モノ・コトが交流し、新たな活力を生み出す産業振興拠点の形成

関連する取組の例 ▶ a b c d e f g h i j k l

③ 新たな経済成長を支えるネットワークの形成

関連する取組の例 ▶ a b c d e f g h i j k l

(2) 持続可能なコミュニティの形成 < 地域 >

① 地域を愛する人であふれる地域コミュニティの形成

関連する取組の例 ▶ a b c d e f g h i j k l

② 独自の仕組みで支える地域コミュニティの形成

関連する取組の例 ▶ a b c d e f g h i j k l

③ 地域コミュニティの場づくりによる交流・学習・活動の促進

関連する取組の例 ▶ a b c d e f g h i j k l

(3) 誰もが住み続けられる生活基盤の形成 < ゾーン >

① 誰もが充実した暮らしを送れるデジタルの力を活用したスマートで利便性の高いゾーンの形成

関連する取組の例 ▶ a b c d e f g h i j k l

② 地域特性を活かした魅力ある住環境の保全

関連する取組の例 ▶ a b c d e f g h i j k l

③ ずっと働き続け、暮らしていけるまちの実現

関連する取組の例 ▶ a b c d e f g h i j k l

2) まちづくりの方向性の内容と取組例

(1) にぎわいと活力ある拠点形成 <拠点>

活力を生む地域資源や交通結節点を「拠点」として位置づけ、水産物や焼津温泉、歴史・文化や自然等の本市の特徴的な魅力や、陸・海・空のあらゆるネットワークを有する本市の強みを活かして、にぎわい創出や産業振興を図ります。

①地域の特徴を活かしたにぎわい・交流促進拠点の形成

【JR 焼津駅・焼津漁港周辺におけるにぎわい拠点の形成】

- ・ JR 焼津駅や焼津漁港周辺においては、新鮮な水産物や焼津温泉、港町特有の街並み景観を有する浜通りなど、焼津ならではの地域資源は、本市に訪れ、滞在したくなるように拠点としての魅力を向上させ、観光振興やにぎわい創出を図ります。

【JR 西焼津駅周辺におけるにぎわい拠点の形成】

- ・ JR 西焼津駅周辺においては、駅周辺に広がる駐車場等の低未利用地を活用した開発事業を進め、商業施設や生活サービス施設を集積することにより、駅利用者及び買い物客等の往來を促し、にぎわい創出を図ります。

【高草山・浜当目一帯における交流促進拠点の形成】

- ・ 緑豊かな高草山や浜当目海水浴場、重要伝統的建造物群保存地区である花沢の里など、焼津で受け継がれてきた自然環境や歴史・文化は、適切に保全・活用を図ることで、関係人口の増加や観光交流の促進を図ります。

実現に向けた取組の例

- ・ 焼津特有の食や焼津温泉を活かしたにぎわい創出（JR 焼津駅、焼津漁港）
- ・ JR 西焼津駅周辺の低未利用地を活用したにぎわい創出（JR 西焼津駅）
- ・ 自然、歴史・文化を味わう観光交流の振興（高草山、浜当目海水浴場、花沢の里）
等

②ヒト・モノ・コトが交流し、新たな活力を生み出す産業振興拠点の形成

【産業振興拠点の形成】

- ・ 本市は首都圏・関西圏の中間地に位置し、東名高速道路や JR 東海道線、港や隣接する富士山静岡空港など、陸・海・空のあらゆる交通ネットワークを活かせる立地優位性を活かし、交通結節点である JR 焼津駅、焼津 IC、大井川焼津藤枝 SIC 周辺、焼津漁港や大井川港周辺においては、新たな産業育成並びに地域特性を活かした企業誘致を進めることで、地域経済に活力をもたらし、国内外のヒト・モノ・コトが交流するまちを目指します。

II 焼津未来デザイン

【幹線道路沿線の活用】

- ・ 国道 150 号をはじめとする幹線道路沿線については、周辺の土地利用状況に配慮しながら、広域交通ネットワークを活かした新たな土地利用を進め目的地の形成により、交流促進及びにぎわい創出を図ります。

実現に向けた取組の例

- ・ 駅舎及び駅前広場の再整備の推進（JR 焼津駅）
- ・ 商業施設のリニューアルによる新たな活力の創出（焼津 IC 周辺）
- ・ 農業・自然環境と共存した産業振興拠点の形成（大井川焼津藤枝 SIC 周辺）
- ・ 国内外とのさらなるネットワーク拡大による産業振興拠点の形成（焼津漁港、大井川港）
- ・ 東名高速道路及び主要幹線道路等を活用した広域連携・交流促進
- ・ 農業への配慮を踏まえた新たな産業用地等の確保

等

③新たな経済成長を支えるネットワークの形成

【情報ネットワークの形成】

- ・ デジタル技術を活用した情報ネットワークの形成により、製造業や物流等における業務効率化や販路の拡大、または効果的な情報発信を推進し、産業振興を図ります。

【産官学の連携推進】

- ・ 事業者や教育・研究機関等との分野横断的な連携を推進し、新産業の育成や地域資源の高付加価値化等を積極的に進めることで、新たな経済成長を支える仕組みを構築します。

【拠点周辺・拠点間の交通ネットワークの形成】

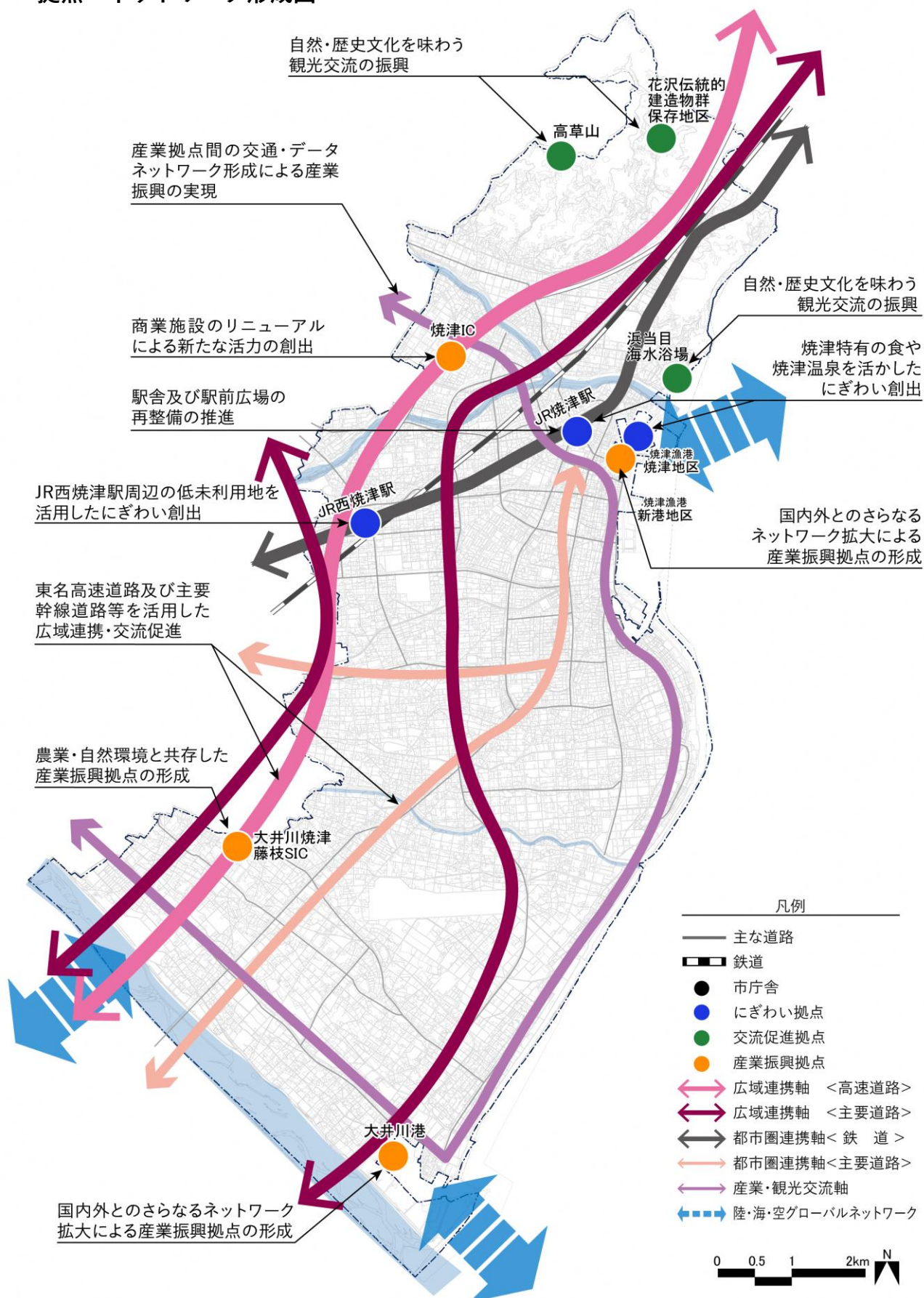
- ・ 拠点周辺及び拠点間においては、先端技術を活かしたモビリティシステム等を複合的に導入するなど、誰もが安全で快適に移動できる交通ネットワークを形成します。

実現に向けた取組の例

- ・ デジタル技術を活用した産業間情報ネットワーク形成による産業の効率化の推進
- ・ 産学官の連携体制構築による新産業の育成
- ・ パーソナルデータの活用による効果的な情報等の提供
- ・ 拠点間の交通・データネットワーク形成による産業振興の実現
- ・ 先端技術を活かしたモビリティシステムの導入

等

<拠点・ネットワーク形成図>



(2) 持続可能なコミュニティの形成 <地域>

地域住民や自治会、市民活動団体や事業者、行政等の多様な主体の協働により、地域交流センターを中心として新たな地域コミュニティの仕組み構築や人材育成、拠点形成等に取り組み、地域コミュニティが主体となった地域課題の解決や、地域独自のまちづくり活動の促進を図ります。

①地域を愛する人であふれる地域コミュニティの形成

【地域づくりの人材育成】

- ・地域コミュニティを形成するための基礎づくりとして、研修会等を計画的かつ段階的に開催し、地域活動の担い手づくりや地域コーディネーターの育成、あるいは地域の安全を守る地域防災リーダーの育成等を進めていきます。
- ・地域の中で、次世代のまちづくりの担い手や地域リーダーの育成を推進し、地域を愛する人であふれる地域コミュニティの形成に繋げていきます。

実現に向けた取組の例

- ・研修会や講座等の開催による地域コーディネーター及び地域防災リーダーの育成
 - ・コミュニティインフォメーションを活用した防災情報ネットワークの構築
- 等

②独自の仕組みで支える地域コミュニティの形成

【地域コミュニティの仕組みづくり】

- ・地域内の多様な主体が連携し、協働して地域課題に対応していくために、地域で話し合い、意思決定する仕組み、さらに地域づくりのための具体的な取組を進める仕組み等、地域特性にあわせた地域独自の仕組みを構築し、地域住民が支える地域コミュニティの形成を図ります。

実現に向けた取組の例

- ・地域独自の意思決定や地域づくりの取組等の仕組みの構築
 - ・地域住民や各種団体、事業者等の協働ネットワーク形成
- 等

③地域コミュニティの場づくりによる交流・学習・活動の促進

【地域交流センターの配置】

- ・「人生 100 年時代」に向けて、高齢者から若者まで、生涯にわたる学習機会や活躍の場を創出することで、元気に安心して暮らし続けられる地域づくりを促進します。
- ・活気ある地域コミュニティの形成のために、市内 9 地域に地域コミュニティの交流拠点、学習拠点、活動拠点となる「地域交流センター」を配置します。また、地域交流センターの連携拠点となる「スマイルライフ推進センター」を配置し、各地域交流センターにおける、健康維持や生きがいづくり等の活動をサポートします。

【地域交流センターの機能向上】

- ・地域交流センターには、コミュニティインフォメーションやフリースペース、オンライン端末等を設置し、地域独自の多様な活動展開を促進します。また、子育て支援、新元気世代の活動支援、高齢者支援、または地域防災力の向上等、多様な地域課題に対応した活動拠点となるよう位置付けていきます。
- ・誰もが住み慣れた地域で住み続けられるように、各地区の地域交流センターを中心として、必要な基盤整備や公共交通ネットワークの構築、日常生活に必要な施設誘導等を行います。また、高齢化が進むことから、地域包括ケアシステムのさらなる推進による支援体制の強化を図るとともに、地域交流センターで高齢者が気軽に集まれる場づくり等を行い、地域内で見守り合いにつながる取組を推進します。

実現に向けた取組の例

- ・スマイルライフ推進センター及び地域交流センターにおけるサークル活動や市民講座等の交流・学びの機会の創出
- ・地域の情報共有におけるコミュニティインフォメーションの活用
- ・地域フリースペースの活用による交流機会の創出
- ・地域交流センターにおける新元気世代に対するデジタル機器利用サポート窓口の設置
- ・地域コミュニティと地域ケア会議の連携による共助体制の構築
- ・「人生 100 年時代」に向けた、生涯にわたる学習機会・活躍の場の創出

等

II 焼津未来デザイン

<地域コミュニティ形成図>



（３）誰もが住み続けられる生活基盤の形成 <ゾーン>—————

未来に向けた持続可能なまちづくりを推進し、市民の生活をより充実したものにするために、デジタル技術の活用や都市機能の集積により、利便性の高い生活の実現及び公共交通ネットワークの形成を図りつつ、自然環境と調和した居住環境の維持や、誰でも働き続けられるまちの実現を図ることで、多様かつ豊かな暮らしを実現し、誰もがいつまでも住み続けられる生活基盤を形成します。

①誰もが充実した暮らしを送れるデジタルの力を活用したスマートで利便性の高いゾーンの形成

【都市拠点ゾーンの形成】

- ・本市の中心市街地である JR 焼津駅の周辺を、都市拠点ゾーンとして位置付けます。ゾーン内では、行政施設や子育て支援施設、商業施設、医療・福祉施設等の都市機能を集積させるとともに、居住機能を配置することで、多世代を惹きつけ、「まちなか居住」の促進を図ります。また、円滑な移動環境を整えた公共交通ネットワークを形成します。

【地域拠点ゾーンの形成】

- ・都市機能の集積状況や交通結節点等を踏まえて、JR 西焼津駅、市立総合病院、スマイルライフ推進センターの周辺を地域拠点ゾーンとして位置付けます。ゾーン内では、行政施設や子育て支援施設、商業施設、医療・福祉施設等を維持・充実させるとともに、既存ストックや低未利用地を活用して、新たな住宅地を配置するなど居住機能の向上を図ります。また、円滑な移動環境を整えた公共交通ネットワークを形成します。

【スマート化の推進】

- ・各ゾーンにおいては、公共交通の運行や各種情報提供等、様々な場面においてデジタル技術を活用してスマート化を図ることで、利便性が高く安全で、充実した暮らしを送れるまちづくりを推進します。

【人口密度の維持】

- ・市街化区域内の主に住居系土地利用や商業系土地利用の範囲においては、人口密度を維持することにより、生活サービスや地域コミュニティの持続的な確保を図ります。

実現に向けた取組の例

- ・都市拠点ゾーンの形成（JR 焼津駅周辺）
- ・地域拠点ゾーンの形成（JR 西焼津駅周辺、市立総合病院周辺、スマイルライフ推進センター周辺）
- ・ゾーン内におけるデジタル技術の活用による利便性・安全性の向上
- ・技術活用による市内循環公共交通の運行

等

②地域特性を活かした魅力ある住環境の保全

【市街地活性化ゾーンにおける良好な市街地環境の創出】

- ・都市拠点ゾーンや地域拠点ゾーンの周辺部や近くに位置する市街地活性化ゾーンについては、河川や社寺林、公園等の身近な自然環境の保全を図りつつ、都市機能の維持や商業・業務地の適切な誘導等により、住環境の維持や就業地の確保に努め、良好な市街地環境を創出します。

【田園集落ゾーンにおける落ち着いた住環境の保全】

- ・農地が広がり、河川や桜並木等がみられる田園集落ゾーンについては、田園風景と共存した落ち着いた住環境を保全するとともに、地域特性を活かした新たな土地利用や産業拠点の形成を検討し、住環境と自然環境、産業の調和を実現します。

【自然環境活用ゾーンにおける自然と調和した住環境の保全】

- ・高草山や浜当目海水浴場等を含む自然環境活用ゾーンについては、自然と調和した住環境を保全するとともに、地域固有の資源として活用することにより、交流が生まれる豊かな暮らしを実現します。

【農地の維持・活用】

- ・優良農地については、継続的に利用する農地の集約化や、民間事業者と協働した新たな農業振興など、田園風景を保全するとともに、遊休農地は農業従事者とのマッチングや田園住宅など、地域に適した活用を図ります。

実現に向けた取組の例

- ・市街地活性化ゾーンにおける良好な市街地環境の創出
- ・田園集落ゾーンにおける落ち着いた住環境の保全
- ・自然環境活用ゾーンにおける自然と調和した住環境の保全
- ・田園集落ゾーンにおける新たな産業用地の確保の検討
- ・優良農地を活かした生産効率の高い農業基盤の形成
- ・田園風景と調和したゆとりある住宅の確保

等

③ずっと働き続け、暮らしていけるまちの実現

【デジタル技術の活用】

- ・デジタル技術の積極的な活用による場所・時間・言語・年齢等に捉われない働き方の浸透や、焼津の特性や自然環境等を活かした新たな産業拠点の形成等による地元雇用の創出により、誰もが働きやすく、焼津での仕事に魅力を感じ、いきいきと活躍し続けられるまちを実現します。

実現に向けた取組の例

- ・ ICT や AI の活用による個々の強みを活かせる多様な働き方の実現
- ・ 新たな地元雇用の創出による移住定住の促進
- ・ 地域と調和が図れた企業誘致の推進による地元雇用の創出

等

II 焼津未来デザイン

<生活基盤形成図>

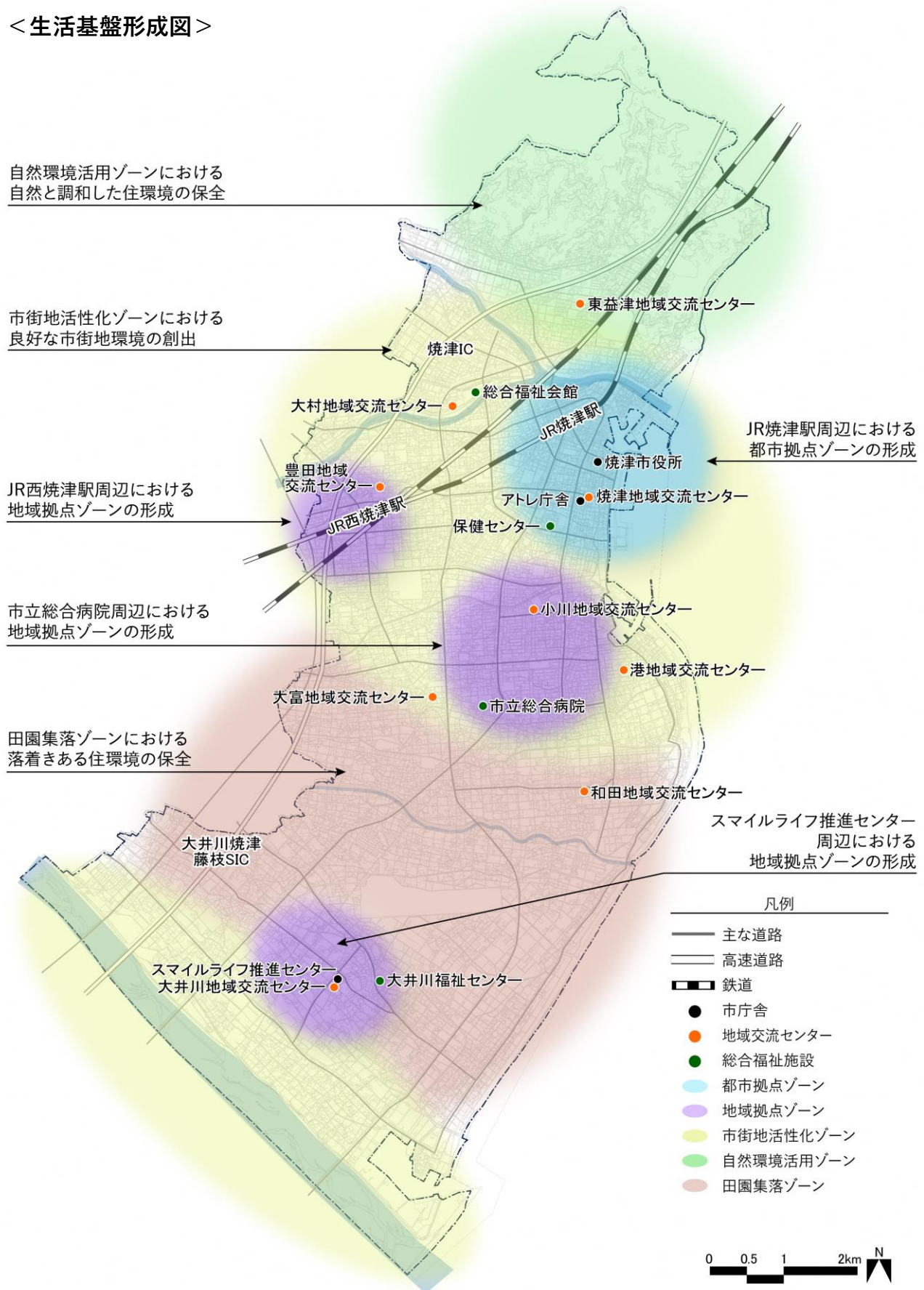
自然環境活用ゾーンにおける
自然と調和した住環境の保全

市街地活性化ゾーンにおける
良好な市街地環境の創出

JR西焼津駅周辺における
地域拠点ゾーンの形成

市立総合病院周辺における
地域拠点ゾーンの形成

田園集落ゾーンにおける
落ち着きある住環境の保全

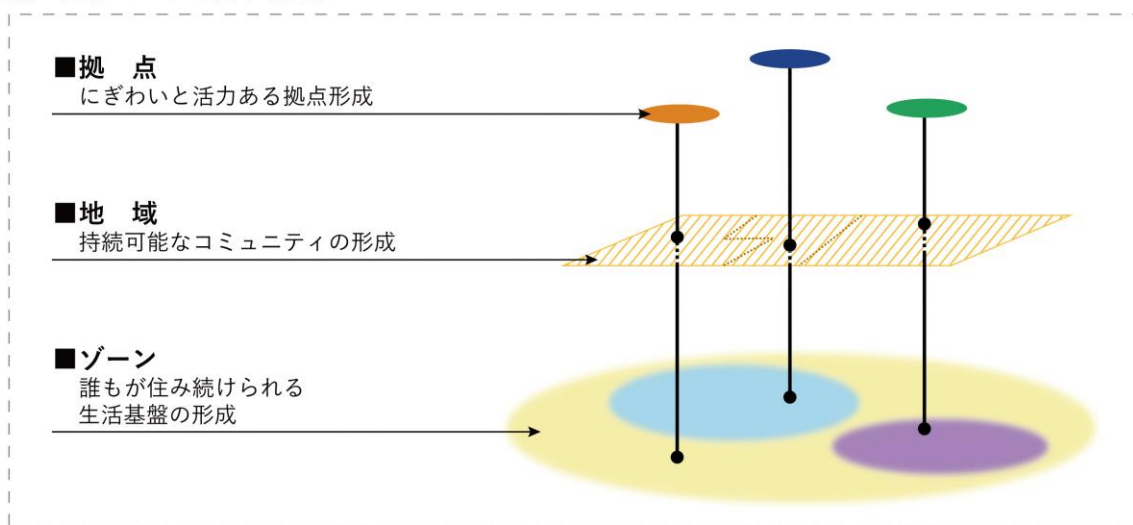


3) 拠点・地域・ゾーンの関係

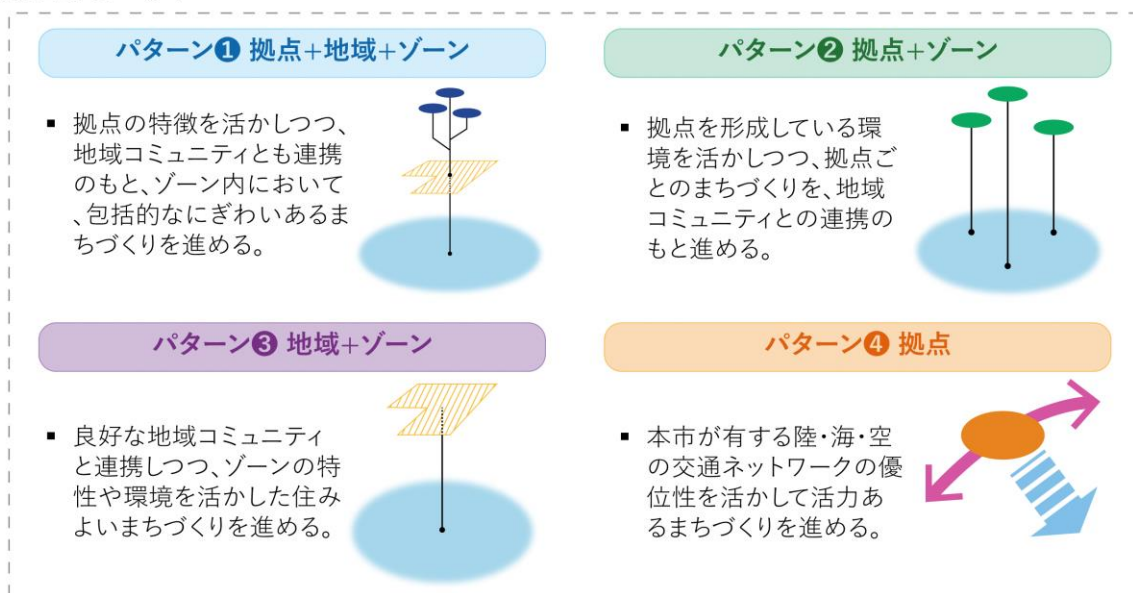
拠点・地域・ゾーンは、関連付けできる関係性を持つ場所があり、それらについては拠点・地域・ゾーンのそれぞれのまちづくりの方向性を踏まえて、総合的かつ計画的にまちづくりを進めていく必要があります。

拠点・地域・ゾーンの関係性は、次のように整理することができ、4つのパターンに分類できます。

< 拠点・地域・ゾーンの基本的関係 >



< 関係性のパターン >



以上の4つのパターン毎に、該当する拠点・地域・ゾーンの特性やまちづくりの方向性を踏まえ、まちづくりのテーマを整理したものを、「未来デザインイメージ」としてまとめます。パターンと場所の関係性はあくまで現時点におけるものであり、今後の社会情勢の変化等に合わせて、必要に応じて見直すこととします。

4 未来デザインイメージ

焼津市の未来像とまちづくりの方向性をまとめるとともに、各項目の関係性を整理すると、4つの未来デザインを導くことができます。それらをまとめた「未来デザインイメージ」は次のとおりです。

< まちづくりの方向性 >

にぎわいと活力ある
拠点形成 <拠点>

- ① 地域の特徴を活かした
にぎわい・交流促進拠点の形成
- ② ヒト・モノ・コトが交流し、
新たな活力を生み出す
産業振興拠点の形成
- ③ 新たな経済成長を支える
ネットワークの形成

持続可能な
コミュニティの形成 <地域>

- ① 地域を愛する人であふれる
地域コミュニティの形成
- ② 独自の仕組みで支える
地域コミュニティの形成
- ③ 地域コミュニティの場づくりによる
交流・学習・活動の促進

誰もが住み続けられる
生活基盤の形成 <ゾーン>

- ① 誰もが充実した暮らしを送れる
デジタルの力を活用したスマート
で利便性の高いゾーンの形成
- ② 地域特性を活かした
魅力ある住環境の保全
- ③ ずっと働き続け、
暮らしていけるまちの実現

< 実現に向けた取組の例 >

自然・歴史文化を味わう観光交流の振興

焼津特有の食や焼津温泉を活かしたにぎわい創出

商業施設のリニューアルによる
新たな活力の創出

JR西焼津駅周辺の低未利用地を
活用したにぎわい創出

駅舎及び駅前広場の再整備の推進

農業・自然環境と共存した
産業振興拠点の形成

国内外とのさらなる
ネットワーク拡大による
産業振興拠点の形成

市内9地域に「地域交流センター」の配置

地域交流センターの機能向上

凡例 ○ 地域交流センター

自然と調和した住環境の保全

良好な市街地環境の創出
都市拠点ゾーンの形成

落ち着いた住環境の保全

地域拠点ゾーンの形成

< 4つの未来デザイン >

1 にぎわいと活力ある拠点連携による
住む・働く・交流の実現

拠点や地域資源の連携により、エリア一体で活力が創出されるとともに、生活利便性と暮らしの魅力が向上したことから、多くの人が住み、訪れ、にぎわいがあふれています

関連エリア
・JR焼津駅・焼津漁港周辺
・JR西焼津駅周辺

2 自然と歴史・文化が息づく
地域づくりと観光交流の実現

自然資源や歴史・文化資源の活用により観光振興が実現するとともに、地域コミュニティ内で、貴重な地域資源や伝統行事等の保全・継承が行われています

関連エリア
・高草山周辺
・浜当目海水浴場周辺
・花沢の里周辺

3 誰もが快適に、育て、働き、
暮らし続けられるまちの実現

ゾーンを中心として都市機能等が充実するとともに、市内9地区の地域交流センターを中心とした基盤整備が進み、誰もが住み慣れた地域で生き生きと暮らしています

関連エリア
・市立総合病院周辺
・スマイルライフ推進センター周辺

4 そら・うみ・りくのつながりと産業拠点を
活かした新たな活力の創出

あらゆる広域交通ネットワークを活かして、新たな企業誘致や施設整備、新規産業の発展が進み、国内外から多くの人が訪れて活力があふれています

関連エリア
・焼津IC周辺
・大井川焼津藤枝SIC周辺
・大井川港周辺